

本覚寺々報

第 37 号
—発行日—
令和 8 年 2 月 5 日



ごあいさつ

住職 波多野 真公

毎年恒例の除夜の鐘の音が去年も大晦日に響き渡りました。除夜の鐘は一般的には百八つ撞くとされていますが当山では参拝者が続く限り撞き続けます。仏教では「人間の煩惱の数」は百八つと言いますが、百八つくらいでは済まないような気がします。そんなことを言っていたら永久に止められません。なぜ百八なのかという数字にも諸説ありますが、そもそも「鐘をつきながら一つずつ煩惱を消していく」なんてことが可能でしょうか。私は小さい頃から毎年欠かさず撞いてますが、煩惱が減っているとは思えません。

蓮如上人は、「仏法のことは、自分の心にまかせておくのではなく、心がけて努めなければならぬ。」

愚かな自分の心にまかせていては駄目である。自分の心にまかせず、心がけて努めるのは阿弥陀仏のはたらきによるのである。煩惱が支配するわが心にまかせず、『たしなむ』身となるのは、他力のおしである。とお示しになりました。「たしなむ」にも、いろいろな意味があるようですが「常に心がける」がしっくりくるように思います。

また、鐘を撞いた後引き続きの除夜会でお勤めいたします正信偈のなかに

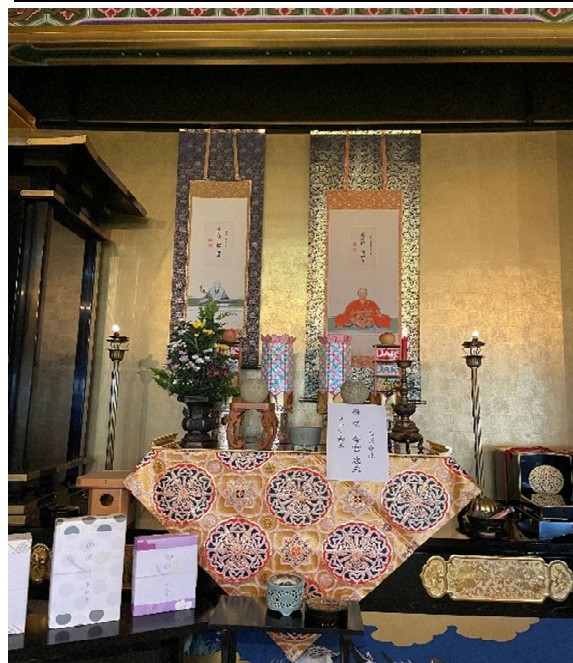
「不断煩惱得涅槃」

煩惱を断ち切らないまま浄土できとりを得る

とありますように私が煩惱を断つのではなく、仏力・他力が絶ってくださるのです。愚かな私こそが救いの目当てであったと気づかされながら、本年も共に一念仏申させていただきます。合掌

先代住職十三回忌並びに 先々代坊守十七回忌 厳修

今年の永代経法要では、開闢法要と併せて先代住職（義淳院釋昭方）の十三回忌、並びに先々代坊守（慧眞院釋尼妙香）の十七回忌を親類ご法中とともに執り行いました。お二人は姫路の本徳寺より本覚寺へ入寺されたご姉弟になります。あらためてお二人とのエピソードを語るには私よりも寺族や先輩法務員にお聞きする方が良いでしょうが、



個人的には先代との思い出は福井（小浜のドライブでした。本願寺の宗会議員をお務めされていた関係で、車で随行することになりました。お裏方から車の運転は道場さんにお願いますねと言われたのですが、時すでに遅し、親御前にハンドルを握られてしまいました。走行距離二十万キロを超えるクラウンで、わたしはまだまだ現役だと言わんばかりのドライビングテクニクは得も言われぬ迫力がありました。

また法要の布教使には島根、西楽寺の菅原昭生師が、とても印象に残る聞きやすい内容のお話をしてくださいました。あるお家へお参りに伺った際に法語カレンダーをお渡しすると、若夫婦のご主人が「この間の永代経のお話で、この言葉を聞きました」と仰ったのです。「これか」が、これまでを決める「普通は過去、現在、未来」という時間の流れがあるのだから、「これまでがこ



れからを決める」と言われるかもしれないませんが、そうではなく、これらの生き方がこれまでの意味を決める。つまりこれまでの人生で辛かったことも、思い通りにならなかったことも全て無駄ではないということです。そして死んだらしまいでなく、これからが定まるからこそ、これまでの人生そのものに意味があったのだと見出されるのです。このご縁にあらためてお聴聞させていただきます。(道場)

念仏奉仕団

福井組合同参拝

五月二十九、三十日にかけて福井組のご門徒の皆さんと合同で念仏奉仕団に参拝させていただきました。福井組として総勢二十八名、本覚寺から十三名の参加となりました。一日目は御影堂の清掃で、お内陣側から一斉に横一列に並び外陣に向かって畳を拭きあげる様子は圧巻でした。ご門主様とご面接(記念撮影)をして初日は終了。夕食では福井組のご門徒の皆さんと交流を深める楽しいひと時となりました。二日目は朝六時より御晨朝のお勤め。引き続き帰敬式があり、本覚寺からは八名が受式し、ご門主様より法名をいただきました。また清掃は御影堂裏側の草むしりという普段なかなか立ち入ることの出来ない場所での作業になりました。その後鴻の間でのお抹茶接待や飛雲閣の見学など、国宝に指定された建物で貴重な体験をさせていただきました。



また龍谷ミュージアムの特別展では大谷探険隊にまつわる展示やその他様々な宝物を拝見しました。大谷探険隊とは本願寺第二十二代大谷光瑞門主を筆頭に結成されたチームです。一九〇二年から一九一四年の間に三回にわたって仏教史跡やシルクロードに関する数々の新発見に貢献したと言われています。念仏奉仕団は、戦後荒廃した西本願寺を何とかして守っていかなければという思いで門信徒を中心に

に行われた清掃活動が始まりとされ、戦後八十年が経った現在も続けられています。清掃には心を落ちつかせ自己を見つめ直す作用があると言われています。念仏奉仕団での清掃は自分の心を見つめ直すだけではなく、本願寺の伝道場を整えお念仏のみ教えを守っていくことに繋がるのです。(園倉)

念仏奉仕団は二年に一度計画しております。まだ帰敬式を受けられておられない方もこの機会に是非ご参加ください。

塚谷総代ご逝去



平成十三年より門徒総代を務めていただきました、塚谷徹雄さん(98)がご逝去されました。二十余年の長きにわたり最後まで寺院の護持発展にご尽力くださいました。また村の道場役としても長年その責務を全うされました。有難うございました。合掌

納涼会に流しそうめんと落語

今回は納涼会に併せて落語会を開催。きっかけは仏教壮年会の会員さんのご要望でした。お笑い芸人から上方落語家に転身した永平寺町出身の笑福亭笑生(しょうき)さんの噺に初めての人でもそうでない人もみんな食い入るように聞き入っていました。さすがはプロの落語家さん、その名の通り笑いを生んでいましたよ。



落語会と並行し境内では流しそうめんもスタート。仏教壮年会のご協力で作られた流しそうめん台は庫裡玄関から山門まで届きそうな



ほど大きなものになりたくさんの参加者で賑わいました。そうめんの他に一口ゼリーやプチトマトも流して変化球。焼き鳥やおにぎり、かき氷にクジ引きなど楽しい夏の思い出になったでしょうか？昔からお寺は布教伝道の場合だけでなく、老若男女問わず誰もが集える憩いの場としての一面も兼ねています。いつでも気軽に立ち寄りがただける、地域密着型の開けたお寺づくりを目指しています。それが若い世代へと伝わって、もっとお寺と近くしていただけたら幸いです。またお寺は皆さんのものでもあります。例えばサークル活動やレッスン会場に場所をお貸しすることもできますし、お経の練習会や健康麻雀などこんなことをしてみても？というご要望もお待ちしております。できる範囲でお応えしていきます。と思います。(園倉)

おてらさんがくぶ

上高地・新穂高

七月の終わりに、日常の喧噪から離れて避暑地へ羽を伸ばしに行ってきました。天候にも恵まれ、河童橋、明神池、高所恐怖症には拷問のような(そこまでひどくはない)新穂高ロープウェイなど、大自然に囲まれながら美味しい空気をたくさん摂取することができました。私もかつてはサッカー少年でしたが、今はもうすっかりインドア派になってしまいましたので、これを機にたるみきった体をどうにかしようと参加しているのですが、たまに体を動かすぐらいではこの厄介な脂肪はなかなか落ちません。普段の自分を猛省しつつ、小学一年生の男の子に元気を貰いながら、楽しく過ごしました。(道場)



懇親ゴルフコンペ

九月中旬、フクイカントリークラブにて懇親ゴルフを行いました。「猛暑のゴルフは危険と隣り合わせ」良いのか悪いのか、雲一つなく冴えわたる快晴のなかスタートする事となりました。最高気温が三十四度。暑い、ひっでもんに暑い。夏の開催は控えなければ…。そんな暑い中でも和気あいあいと盛り上がりました。プレー後お寺に戻って表彰式と懇親会。優勝は東古市区小林啓一氏。私は軽い熱中症で懇親会を最後までお付き合ひできませんでした。夏猛暑での運動は気を付けましょう。参加者十六名、最高齢は九十歳。ゴルフは世代を超えて、さらには経験や技術や実力にとらわれず、丸一日皆で楽しめる数少ないスポーツです。これからでも新たに始めようという方、暫く休止していて再開しようか迷っている方、ゴルフは嗜むがコンペには二の足を踏んでおられる方、是非ともお仲間としてお待ちしております。(宮口)

仏教婦人会 第十三回中部・北陸 ブロック大会

仏教讃歌のコーラスに参加して

仏教婦人会会長 齊川 静子

第十三回中部・北陸 仏教婦人大会が令和七年六月二十七日に県立音楽堂で開催され、岐阜・東海・富山・高岡・石川・福井の六教区、約一三〇〇人が参加されました。本覚寺仏教婦人会として、一般会員十四人、コーラス十六人、役員一人、合計三十一人が参加いたしました。合唱席(約一〇〇人)から全体を観



察させていただき感じたことを申し上げます。

福井での開催は今回で三度目、前回の二度目もコーラスとして参加させていただきましたが、今回は非常に会場の盛り上がりを感じました。そして大会を終えて皆様が帰られる時、出口にて合唱でお見送りをさせていただきましたが、「皆様、有難うございました。次回、またお会いしましょう」という雰囲気皆様からの反応で強く感じました。この盛り上がりについては、役員をはじめ、参加された方々が一丸となり「念仏に生かされる喜びを

行動へ」の大会スローガンを共に学び得られた賜物と実感しているところでございます。今回の大会を通して多く学ばせていただき、今後の活動に生かしていきたいと感じています。

僧侶のひらび

皆さんは新しい人の死をどのよう to 受け止めますか？亡くなった人はどこでどうしているのでしょうか？悔いはなかったでしょうか？苦しんでいないでしょうか？四十九日まではお家にいて、それが済むまでは成仏できないのですか？という認識をされている方がまだまだおられるのではないのでしょうか。またこのような精神状態になると、多くの人がスピリチュアルなものにすがってしまうのかもしれない。昔、テレビ番組で、亡くなった人やペットのメッセージを受け取れるという能力者が出てきて、感動的なエピソードを語るといふものがありました。それで遺された家族が癒されるのであればそれも良いんじゃないかと納得されるかもしれません。しかし、それは今生きている私たちのエゴなのではないでしょうか。自分と死という問題を分けて考えてしまっているのです。亡くなっていった人やペットは、私たちに死をもって真実、

真理を伝えてくれているのに、スピリチュアルなものに惑わされ、大切なことに気づけないでいるのです。死を受け入れるということは、他人事ではなく自分自身の問題として受け止めるということなのです。あるお寺の伝道掲示板に「お前も死ぬぞ」と書かれていたのは有名な話ですが、どこにしているの？どうしているの？と心配しているあなた。亡くなった人は、そんなあなたのことを心配しているのです。

フォトギャラリー



平林 甚一さん(法寺岡)

令和八年 年回法要表

一	周忌	令和七年歿
三	回忌	令和六年歿
七	回忌	令和二年歿
十三	回忌	平成二十六年歿
十七	回忌	平成二十二年歿
※二十三	回忌	平成十六年歿
二十五	回忌	平成十四年歿
※二十七	回忌	平成十二年歿
三十三	回忌	平成六年歿
五十	回忌	昭和五十二年歿

※印は地区によってされないところもあります

○令和八年の年回法要表です。

お仏壇の過去帳・御位牌でご確認下さい。年忌申込の際は、

氏名・住所・電話番号
年回の種類・法名

を必ずお知らせ下さい。

○過去帳・御位牌の法名記入承ります。

○お念珠修理承ります。紐が切れ

て使えなくなっているお念珠がございましたらお気軽にお申し付けください。

ホームページのご案内

[http://hongakuji.g](http://hongakuji.gionsyouja.com/)

[ionsyouja.com/](http://hongakuji.gionsyouja.com/)



パソコン用



モバイル用

寺だより

遅ればせながら。昨年戦後八十年にあたり西別院で福井空襲にまつわる行事を企画した。色々調べる中で総務省のIPに『空襲の状況』として「B 29 はまず始めの焼夷弾を西別院付近に投下した」とあった。ご存知の方もおられるが当時本覚寺は西別院の隣にあり空襲で全焼している。その時の話は祖父母からなるとなくは聞かされていた。

空襲が始まり祖父が本堂に向かうと縁に置いてあった文机の上の書物が熱風で煽られ一瞬で燃え上がったという。そんな火の海の中で

何をどう逃げたものか、祖父母と曾祖母は大阪から疎開していた甥姪を背負い、熱さから逃れるために時々川の水に浸りながらなんとか逃げ遂げた。翌日焼け跡に戻ると近所に住む弁護士さんが石灯籠にもたれかかるようにして黒焦げで亡くなっていたという。

そこにご門徒で川合鷲塚の小林道場さんが心配して探しに来て下

さり一時的にそこに身を寄せた。

そしてそこに今の東古市で庄屋であった長谷川さんが探しに来てくださって一家で三年ほど長谷川家に間借りさせていただくことになる。

その後ご門徒の皆さんの協力で現在の場所に建物が造られ、さらに大野の豪農から建物を移築して本堂とした。その際下浄法寺の朝倉道場の先代先々代がご尽力くださった。また宝物類は轟の川治庄兵衛さん宅他何か所かに疎開させていただいており無事だった。つくづく今の本覚寺があるのはご門徒さんのお陰なのだ。

図書館で資料を調べる中、同じく市内のお寺の坊守さんの手記を二通みつけた。いずれもご門徒さんが探しに来てくれた、世話になったと感謝の言葉が記されている。そしてご門徒さんにとってもお寺は心の依りどころとして、大切に思ってくださっていたのだろう。

八十年が経ちもう語り継ぐ者もいなくなるであろうこの話をここに記しておく。合掌

令和8年 本覚寺行事予定

◆修正会	一月一日	流杯の儀
◇御年頭	一月一、二日	十時より
◆御正忌	一月十五日	十四時より
◇門徒大会	二月五日	別途案内
◆仏壮・仏婦合同報恩講	三月上旬予定	追悼法要・そば会
◇勝山支坊太子講	三月三十一日	十時より
◆花蓮の会	四月上旬予定	午前九時より蓮植替え
◇花まつり	検討中	賢覧・幼稚園・小生・参加
◆聖地参拝	検討中	富山・能登予定
◇懇親ゴルフコンペ	検討中	
◆降誕会・初参式	六月予定	別途申込
◇勝山支坊永代経	六月三十日	十時より
◆清掃奉仕	永代経前	仏婦
◇掛所盆参り	七月十四日	十八時より読経
◆永代経	七月十五、十六日	開闢法要
◇納涼法話会	八月予定	
◆清掃奉仕	報恩講前	仏婦
◇報恩講	十月五、六日	
◆勝山支坊報恩講	十月二十一日	十時より
◇除夜会	十二月三十一日	二十三時四十五分頃

感謝録

お供え

(敬称略)

菓子

塚谷 英男

北四ツ居

梨

鹿野 啓信

小塩 辻

果物

今宮 忠夫

乙坂 今北

酒

帰山 信勝

猪野 口

米

朝田 勇次

春 江

齋藤 敏昭

舟 寄

青木 保憲

東古 市

川治 英一

轟

舟木 政美

大和田

清水 勲

大 月

田中 克治

重 立

山本 清勝

笹 尾

前田 清司

阿難 祖

竹中 哲男

菅 谷

富田 幸二

上北 野

岩崎 克哉

河和 田

花

岩崎 克哉

河和 田

寄 贈

齊川 嘉長

光明 寺

蠟 燭

齊川 嘉長

光明 寺

ご奉仕

蓮植 替え

蓮植 替え

除夜会手伝い

仏教壮年会、仏教婦人会

仏教壮年会有志

除夜会手伝い

仏教壮年会、仏教婦人会

仏教壮年会有志

除夜会手伝い

仏教壮年会、仏教婦人会

仏教壮年会有志

除夜会手伝い

仏教壮年会、仏教婦人会

仏教壮年会有志

除夜会手伝い

仏教壮年会、仏教婦人会

仏教壮年会有志

除夜会手伝い

仏教壮年会、仏教婦人会

仏教壮年会有志

帳場その他お手伝い

仏教壮年会、仏教婦人会

おみがき

年末 末政御同行

厚く御礼申し上げます。

ありがとうございました。

編集後記

私の車はマニュアルですが、マニュアル通りにしか動けない、対応できない人は苦手です。それも個性かと自分に言い聞かせながらも、人との会話や行動には良い意味で遊びが欲しいものです。ほんとに社会経験を経験せずにこの世界に入った私が言えることではありませんが、今後ともどうかよろしくお願いします。(道場)

ここに第三十七号をお届けします。

皆様方の寺報原稿お待ちしております。写真や絵、俳句などでも結構です。

発行所

浄土真宗本願寺派
和田山 本覚寺